

テレビ番組表からみた現代社会の諸相 (その10)

—現代社会の総理解解のために—

伊佐治大陸

Aspects of Modern Society Viewed from the Angle of TV Programs (10)

—Towards An All-Round Understanding of Modern Society—

Tairiku ISAJI

はじめに

「年年歳歳花相似，歳歳年年人不同，……比翁白頭真可憐，伊昔紅顏美少年」とは「代悲白頭翁」と題する7世紀，初唐の劉廷芝の漢詩（唐詩選）の一部である。その意を素直に取るならば，自然は同じであっても世間は年とともに変転するという人の世の儂さがそこには表明されている。TVは毎年毎年同じように番組を流しているが，その内容は年ごとに流転（微小変化）するのだとも翻訳できる。TVを通じて，私たちはさまざまな「新しい驚き」「新しい変化」をキャッチしているが，TVとは現代におけるまことに不思議な存在である。1980年代に入って，筆者は新聞掲載のTV番組表との「にらめっこ」を繰り返してきた。その結果を何らかの形で整理し，記録にとどめることは，筆者にとって現代社会を総理解解することに他ならない。今回もまたTV番組表との「にらめっこ」の結果を本稿に記す。

Part I 1980年代前半

(1) TV番組表と現代社会

朝の新聞には，日本全国で放送されるその日のTV番組（NHKの総合TVと教育TV，民放のNTV・TBS・FUJI・TV朝日・TV東京の6大TVネットワーク）の番組表が掲載される。1年間365日をトータルすれば，そこに盛り込まれているあらゆる分野をカバーする情報量は膨大なものである。そこには，1カ月前には見たことも聞いたこともなかった，あるいは普段は特に意識して使ったこともなかったことばがいつの間にかやたらに目につくようになったりする。TV番組表そしてTVというものは，どうも現代社会の表層部分を「浮遊」する触覚センサーに相似している。

1980年7月から1985年6月までの5年間，7月から翌年6月までを1サイクルとして，朝の新聞に掲載されるTV番組表の中から60のキーワードを選び出してきた。キーワードとはTV番組表によく出現する頻度の高いワード，現代社会を象徴していると思われるシンボルとしてのワード，時代の予兆を先取りしているワードなどを勘案して選出したワードのことである。結果として，1980年代前半の5年間で合計300のキーワードを拾い集めたことになる。この300のキーワードは，少なくともTV番組表というフィルターを通して見た一つの「現代社会」を表現している。1980年代前半がいかなる現代社会であるかを理解する一つの手だてとして，

300のキーワードを8つのブロックに分類・整理し、次にTV番組表と現代社会にかかわるいくつかの特徴と課題についてまとめを行う。

(2) キーワードによる1980年代前半のトータル・ピクチャ

1. 国際・軍事防衛問題

国際障害者年 (International Year of Disabled Persons) 世界婦人会議 (World Conference of the U. N. Decade for Woman, 1980) 婦人差別撤廃 (abolition of female discrimination) ナヒーモフ (НАХИМОБ) レーガン旋風 (Reagan sensation) ASEAN (Association of South-East Aseian Nations) OPEC (Organization of Petroleum Exporting Countries) サミット (Summit Meeting) ナミビア (Namibia) フォークランド (Folkland) 北方領土 (the northern territories of Japan) 香港 (Hong Kong) シーレーン (Sea Lanes of Communication) 核シェルター (Nuclear Shelter) ス克蘭ブル (scramble) P3C オライオン (P3C, Lockheed, Orion) SDI (Strategic Defense Initiative) 逆オイルショック (counter oil shock) 緑の党 (Die Grünen) INF (Intermediate-Range Nuclear Force) ホルムズ海峡 (Straight of Hormuz) グレナダ (Grenada) エル・ニーニョ (El Niño) セーシェル共和国 (Republic of Seychelles) ブルネイ (Sultanate of Brunei) オマーン (Oman, Saltanaal-Uman) アフリカ飢餓 (the starvation in Africa) 宇宙船地球号 (Space-ship Earth)

2. 時事・政治・経済問題

行政改革 (administrative reform) 臨時行政調査会 (Ad Hoc Committee Investigating Administration) 中国残留孤児 (Japanese orphans in China) 連合政権 (coalition government) 比例代表制 (proportional representation system) 熟年ライフプラン (Life plans of the aged) フレックスタイム制 (flexible working hours system) ポートピア (Portpia) テクノポリス (technopolis) アビリンピック (abilimpic) ホームヘルプ事業 (Homehelp Service) 鐘の鳴る丘 (Bell-Ringing-Hill) QC (quality control) 戦艦大和 (YAMATO) 地中海ミバエ (Medfly, Mediterranean fruit fly) ヤンバルクイナ (Rallus okinawae) マイナスシーリング (minus ceiling) 緑の地球防衛基金 (The Greening of the Earth Fund) 国際科学技術博覧会 (EXPO '85, International Science and Technology Exposition) 放送衛星 (BS- II, Broadcasting Satellite- II) しらせ (SHIRASE) 徳山村 (Tokuyama mura) 男女雇用平等法案 (the bill of fair employment based on sexual equality) 王滝村地震 (the earthquake in Ōtaki-mura) かい人21面相 (Kaijin 21 Mensō) ポートビル (Portbill) ワールドインポートフェア (World Import Fair in Nagoya '85) 宅配便 (parcel transport service) ソフトノミックス (softnomics) 外食産業 (Gaishokusangyo) マル優 (Tax Exemption System for Saving) 大型間接税 (Largescaled indirect tax) 割賦販売法 (Hire-Purchase Act) 児童手当 (children allowance) うさぎ小屋 (rabbit hatch) 第三セクター (The 3rd Sector) パートタイム労働 (part-time labor)

3. 学芸常識

タンザニア (Tanzania) ヌバ族 (The Nuba-tribe) フィジー (Fiji) エストニア (Эстония) カナリア諸島 (Canary Islanders) ガラパゴス (Galápagos) ストーンヘンジ (Stonehenge) パイチチ (Pititi) シルクロード (Silk Road) ソグド商人 (Sogdian merchants) ブロッキン現象 (Brocken phenomenon) ジャッカルの日 (Jackal's Day) エ

スコリアル (EL Escorial) エルミタージュ美術館 (Gosudarstvennyi Ermitazh, Эрмитаж)
アルハンブラ宮殿 (Alhambra) ケーニヒスベルクの橋 (crossbridges in Königsberg) カ
タストロフィー (catastrophe) チャランゴ (charango) タリウム (Thallium) グロキシ
ニア (Gloxinie) シンビジウム (Cymbidium) ハーブ (herb) テラピア (Tilapia) ナ
ウマン象 (Naumann Elephant) イトウ (Hucho perryi) メルルーサ (Merlucciidae) シ
ーラカンス (Coelacanth) タキタロウ (Takitarou) ブータン (Druk-yul Bhutan) モル
ディブ共和国 (Republic of Maldives) ベドウィン族 (The Bedouin tribe) マサイ族 (The
Masai tribe) モン族 (The Hmong tribe) カレン族 (The Karen tribe) 第二の太陽系
(the 2nd solar system) 皆既日食 (solar eclipse) ハレー彗星 (Halley Comet) アトラン
ティス (Atlantis) アマゾン (Amazon) リトルワールド (Little World) ボストン美術
館 (BOSTON MUSEUM) ガンダーラ美術 (Arts of Gandhara) ビデオアート (video
art) 山田寺 (Yamada Temple) チタン (titanium) 四万十川 (Simanto River) ユーコ
ン川 (Yukon River) 体内時計 (interior watch) 日本学 (Japanology)

4. 現代科学・科学技術

スペースシャトル (space shuttle) ボイジャー (Voyager) NASA (National Aeronau
tics and Space Administration) イカルス (Icarus) 確率予報 (probability weather
forecast) 冷夏 (wet summer) 群発地震 (swarm earthquake) 代替エネルギー法 (Act
of Substitutional Energy) 波力発電 (wave activated power generation) ニューセラミック
ス (new ceramics) OA (office automation) IC (integrated circuit) マイコン (micro
computer) コンピュータグラフィックス (CG, computer graphics) マイクロエレクトロニ
クス (ME, micro electronics) パーソナルコンピュータ (personal computer) ワードプロ
セッサ (wordprocessor) 半導体 (semiconductor) 第五世代コンピュータ (The 5th
Generation Computer) 産業用ロボット (industrial robot) テレビウォッチ (television
watch) レーザー (LASER) 光ファイバー (optical fiber) INS (Information Network
System) CATV (cable television) 文字多重放送 (Graphic Multiplex Broadcasting) 高
品位テレビ (HDTV, High-Definition TV) ニューメディア (new media) 衛星通信
(satellite communication) バイオテクノロジー (biotechnology) バイオマス (biomass)
本四架橋 (HON-SHI Bridge Construction) 東北新幹線 (The Tōhoku Shinkansen Line) ホ
バークラフト (hovercraft) 青函トンネル (SEI-KAN Tunnel)

5. 現代医学

インターフェロン (IF, interferon) 丸山ワクチン (Maruyama-vaccine) 角膜移植
(Kelatoplastik) 川崎病 (MCLS, mucocutaneous-lymphnode-syndrome) 脊柱側弯症
(Skoliose) 心身症 (Psychosomatische Krankheit) つつが虫病
(Tsutsugamushi-Krankheit) ヒスタミン (Histamin) カラノス症候群 (empty nest
syndrome) 初老期うつ病 (Involutiondepression) 拒食症 (Anorexia Nervosa) 膠原病
(collagen diseases) 試験管ベビー (Fertilization in vitro) 人工心臓 (Jarvik-7) ビタミン
E (Vitamin E) ビタミン K (Vitamin K) 生命科学 (Life science) 遺伝子工学 (genetic
engineering) 右脳 (right brain) ザ・ブレイン (the brain) 花粉症 (hay fever,
Heufieber) 森林浴 (Green Shower) ラマーズ法 (Lamaze Technique) ダウン症
(Down's syndrome) ホスピス (hospice) 過敏性大腸症候群 (Reizkolon, irritable colon
syndrome) ネフローゼ症候群 (Nephrose Syndrome) B型肝炎 (B-type Hepatitis) ぼけ

(Demenz, dementia) ボツリヌス菌 (Botulinusbazillus)

6. 現代生活・時代感覚

アスピック (aspic) ブロイラー (broiler) スニーカー (sneaker) プレタポルテ (prêt à porter) ベビーホテル (baby hotel) パッティング (patting) ヨーガ (yoga) イメージソング (image song) ファクシミリ (facsimile) アンティークブーム (antique boom) クリスタル族 (crystal group) 蒸発 (mysterious disappearance) タムタム祭り (Tom-Tom festival) ドラえもん (Doraemon) ふるさと再発見 (recovery of our hometown) ベルばら (Berubara) 天中殺 (Tenchusatsu) ゼロサム社会 (zero-sum society) クレーマー・クレーマー (Kramer vs. Kramer) ブリキの太鼓 (Die Blechtrommel) Dr スランプ (Dr. Slump) トットちゃん (TOTTO-CHAN) 人間万事塞翁が馬 (Inscrutable are the ways of Heaven.) ポンパドール (ponpadour) コインランドリー (coin laundry) ルービック・キューブ (Rubic Cube) うる星やつら (URUSEI-YATSURA) 悪魔の飽食 (Insatiate Satan) E. T. (The Extra-Terrestrial) ブルートレイン (Blue Train) 訪問販売 (call sales) ネクラ (nekura) ルンルン (runrun) コピー食品 (copy food) 単身赴任 (Tanshinfunin) 高齢化社会 (silver society) コアラ (koala, Phascolarctos cinereus) エリマキトカゲ (Chlamydosaurus kingi Gray) おしん (Oshin) くない族 (Kurenaizoku) ザ・デイ・アフター (The Day After) ザ～ (the～) イッキ (ikki) ロリコン ('Young Girls' Complex) 一世風靡 (ISSEIFŪBI) パフォーマンス (performance) キン肉マン (KINNIKUMAN) ワンルームマンション (one-room mansion) ナショナルトラスト (national trust) テクノストレス (technostress)

7. スポーツ・教育問題

シンクロナイズドスイミング (synchronized swimming) スカイダイビング (skydiving) ドカベン (Dokaben) バンカー (bunker) エリカ号 (ERIKA) ストレッチング (stretching) フリスビー (Frisbee) 喬戈里峰 (Summit of Chogori) MVP (Most Valuable Player) 新体操 (rhythmic sports gymnastics) エアロビサイズ (Aerobicise) サラエボ (Sarajevo) レスポ (LESPO'84, leisure, recreation and sports games) ナムナニ (Namunanifen) ロサンゼルス・オリンピック (Los Angles Olympic Games)

家庭内暴力 (violence in the home) 偏差値 (T-score) 集合型高等学校 (group system of high schools) シュタイナー学校 (Steiner Schule) 親子戦争 (Conflict between parents and child) 学校給食 (school lunch) 教科書検定 (Authoriaztion of school textbook) 共通一次 (College Entrance Aptitude Exam, 1st Part) 校内暴力 (violence in the school) 習熟度別指導 (teaching based on classification by achievement level) 生徒心得 (Pupil's Manners) 箱庭療法 (sand play technique) 登校拒否 (school refusal) 戸塚ヨットスクール (Tozuka Yacht School) ねむの木学園 (Nemunoki Gakuen) モラトリアム人間 (a person in moratorium) 青い鳥症候群 (L'Oiseau Blue Syndrome) 臨時教育審議会 (Ad Hoc Committee Investigating Education) 口は大きく耳は小さく (larger mouth, smaller ears) 専修学校 (Sensyū-gakko) 放送大学 (Open University of the air)

8. TV に登場した35人の人物

ジョン・レノン (John Lennon) ミッテラン (Mitterand) ワレサ (Lech Walesa) マザー・テレサ (Mother Teresa) ヨハネパウロ2世 (Johannes Paulus II) ローレンツ (Konrad Zacharias Lorenz) アルビン・トフラー (Alvin Toffler) ダイアナ妃 (Princess

Diana) マッケンロー (John Mc-Enroe) ライシャワー (Edwin O. Reischauer) センダック (Maurice Sendak) ブッシュマン・ニカウ (Bush Man NIKAU) ホロビッツ (Vladimir Horowitz) ロバート・キャパ (Robert Capa) サリー・ライド (Sally Kristem Ride) レスター・サロー (Lester C. Thurow) フェラーロ (G. A. Ferraro) インディラ・ガンジー (Indira Gandhi) ゴルバチョフ (Горбачев М.) 胡耀邦 (Hu Yao-bang)

千石イエス (Sengoku Christ) 福井謙一 (Kenichi Fukui) 西本幸雄 (Yukio Nishimoto) 横溝正史 (Seishi Yokomizo) 宇野千代 (Chiyo Uno) 土光敏夫 (Toshio Doko) 米長邦夫 (Kunio Yonenaga) 木下恵介 (Keisuke Kinoshita) 小林秀雄 (Hideo Kobayashi) 斉藤喜博 (Kihaku Saito) 高見山大五郎 (Daigoro Takamiyama) 石本茂 (Shigeru Ishimoto) 中西悟堂 (Godō Nakanishi) 植村直己 (Naomi Uemura) 渡辺格 (Itaru Watanabe)

(3) TV 番組表からみた現代社会の特徴

1980年代前半の TV 番組から抽出した合計300のキーワードをベースにして、現代社会の主要な特徴をクローズアップしてみたい。筆者としては、現代社会の特徴は以下の8点に集約できるものと考えられる。

1. 物は豊かであっても、不安と「精神の飢餓」とも表現すべき世相が底流に流れている。
2. 過去の歴史的諸事実、歴史的遺産が現代に尾を引き、現代社会の骨格が形成されている。現代社会の諸事実のルーツはすべて過去の歴史につながっており、現代社会と歴史との関係は一つの大きなダイナミズムとして形成されている。
3. 科学技術 (サイエンス) の時代
 - (a) 現代は科学技術優位の時代である。人々の関心も、人文的カルチャーよりも科学的カルチャーに重点がかかっている。
 - (b) 現代社会はマイクロエレクトロニクス社会へ向かって変化しつつあり、我々の生活スタイル、学習のあり方、仕事や労働のしくみは従来とは質の異なる世界へと徐々に変容しつつある。その変容に対する副作用として、現代社会には影の部分と光の部分がいたる所でクロスしている。
 - (c) 現代はコンピュータ科学の発展がとどまることを知らない時代である。コンピュータ科学の発展とともに、一方ではコンピュータをはじめとするハイテクノロジーに適應できない人々の現代的な病が社会問題化しつつある。
4. 高齢化社会への移行とともに老人問題が一つの大きな社会問題となりつつある。老人介護、寝たきり老人もさることながら、老人性痴呆症すなわち老人ボケの問題は一人ひとりにとって決して他人事ではない。しかし、一方では TV (番組表) には「心の若さ」をバネにして我々にオールドパワーの魅力を感じさせる何人かの「元気」な高齢者が登場した。
5. 現代における人々の「知」への関心は、観念上ないし机上の「ことば」の操作としてでなく、何らかの肉体的表現や行動を伴うべきであるとの傾向が強い。思想 (フィロソフィー) よりも行動が重視される時代だと言い換えることができる。それは「ことば」が建前としてしか用いられなくなった現代に対する一つのリアクションでもある。
6. TV (番組表) から見る限り、現代社会はめまぐるしく動いている。事実の変化に意識の変化が追いつけないほどめまぐるしい社会に我々は生きている。
7. 地球的ないし宇宙的スケールの発想の時代
 - (a) 現代においては国際的規模のトピックスや時事問題が大きく取り沙汰されるようになった。現代に生きる人々にとって、地球はますます小さくなりつつあり、政治・経済の両面から地球

的規模の問題が少なからず生起している。

(b) 現代の日本は国際社会にコミットする局面が頻繁化するようになった。このことと関連して、現代はカタカナ英語、横文字用語横行の時代である。カタカナ英語や横文字用語には新しい時代感覚と時代の必要性を盛り込みやすいからであり、これらのワードは日本人と外国人のコミュニケーション活動において共通の土俵をセッティングできるメリットを持っているからである。

(c) 現代はローカリズムとインターナショナリズムの相互依存関係化が進行しつつある。閉鎖的なローカリズムではなく、ローカルな内容（事実・事象）が世界の各国と相互依存関係を持つようになった。現代人は、一見矛盾するかにみえる地域感覚と国際感覚の二つのセンスを同時に保有することが必要となっている。

(d) TV 番組表には、領土問題や紛争・戦争・防衛・平和に関連するワードの出現も少なくない。そこには現代社会における戦争・紛争の動きとそれに対抗する平和の運動が現れている。核戦争、反核運動への関心の高まりは、世界のどこかでひとたび核戦争が勃発すれば、地球上の生物が一瞬にして滅びるという時代に我々が生きている証拠である。

(e) 現代は、地球的ないし宇宙的スケールでの問題把握や発想が要求される時代である。日本という船ではなく、地球という船に乗船しているとの観点から我々は何ごとを考えなければならない。米ソを中心とする核軍拡競争および核軍縮交渉が宇宙を舞台として繰り広げられるようになった現代は、今にもこわれそうな地球上に世界の人々が必死に生きているのだとの思いを強くさせてくれる。各国における原発事故発生を加味させると、核シェルターという防衛手段が単なる杞憂ではなく、現実に必要なのだとの認識が我が国においても強くなってきた。

8. 情熱の教育喪失の時代

最後に教育問題の特徴についてふれておきたい。いじめ・家庭内暴力・校内暴力などの現代青少年のバイオレンス問題、自殺・登校拒否・心身症などの心の病の頻繁化に対して、一方の極にはスパルタ的対応、他極には精神治療的対応の方式が試みられている。これら教育の諸問題は今日の教育システムが余りに管理化されすぎてしまった必然的帰結でもある。現代は、感動できる心、情熱を傾ける心を育てる教育が危機に陥っている時代である。青少年が適切に育つための感動の教育、情熱の教育が失われつつある時代である。

Part II 1980年代後半へのターン

(1) 1985年7月～1986年6月のTV番組表

1985年7月～1986年6月の1年間、従来と同じ手法によって新聞掲載のTV番組表からキーワードをピックアップする作業を続けてきた。1980年代もすでに後半に入ったわけであるし、これを契機に本稿も新しいスタイルでの研究とまとめに転換させていきたい。しかし現段階では新しいスタイルを発見するに至っていない。そこで、とりあえず従来のスタイルを改めて、1980年代後半の第一年目としての今回は、筆者がテレビ番組表から抽出したナマのデータをそのまま載せることとしたい。そして、それらのナマのデータであるワードの中から、頻度の高いもの、現代社会を象徴するシンボルとしてのワードなどを勘案して、最後に60のキーワードを選択する。

ナマのデータはア行、カ行、サ行の順にまとめ、ワードと人物については別々にグルーピングしてみる。ナマのデータをすべて網羅した上で、60のキーワードを選出し、この1年間（1985年7月～1986年6月）のキーワード・ピクチャを構成することとしたい。

(2) 1年間のナマのデータ・ワード

〈ア行〉

ワード——異文化, イッキ, インターフェース, いじめ, 宇宙船アガムノン, ウィグル族, 液晶テレビ, エイズ, エルサルバドル, エコロジー, エントロピー, 温熱療法, オオカミウオ, アナログ, アルケサス, アスベスト公害, ウズベク共和国, 宇宙の科学史, ウーパールーパー, 家永訴訟, アトピー性皮膚炎, 医食同源, おばさん症候群, エリカ号, アラミド, アミトロ, アスピリン系かぜ薬, オープンスクール

人物——糸井重里, 今井通子, 飯島宗一, 梅原猛, 浦山桐郎, 大村はま, 旭富士, アキノ, 石川忠雄, 梅原竜三郎, 泉重千代, 遠藤豊吉, 岡本太郎, 岡村昭彦, 岡田有希子, イメルダ

〈カ行〉

ワード——環境教育, 海王丸, 絵画療法, ガラスのうさぎ, がん化学療法, カシミール, 核の冬, 川崎病, キン肉マン, 教育課程の改訂, キャッチセールス, 原発廃棄物処理場, 劇場社会, ゲゲゲの鬼太郎, コンピュータ教育, コロンビア火山噴火, カルガモ, コスタリカ, 金八先生, カルメン現象, 金妻, キエフ, 気功法, 金属疲労, 工学繊維, カメハメハ大王, グルメ, 核融合発電, 快適工学, 大黄河

人物——カール・セーガン, クロード・チアリ, 海部俊樹, 小林宏治, キッシンジャー, 北尾, 久野綾希子, 河合隼雄, 木村治美, 栗本慎一郎, 衣笠祥雄

〈サ行〉

ワード——ザ・ブレイン, 三世代住宅, ザイール川, サグレス, 人工知能, シルバー産業, 少衆, 実年, 刷りこみ, スクランブル, スクールストレス, 声紋分析, 銭塘江, 1995年, サンバ, 生徒心得, シネラリア, シルバーボランティア, ソビエト原発事故, ジオット, CCV 機, 思秋期, 新人類, 失語症, 占星術, 創政会, セピック川, 生涯学習 (教育), 思春期やせ症, 参議院比例代表選出議員選挙

人物——シャガール, シュワルナゼ, 堺屋太一, 佐藤忠男, 鈴木啓示, 斉藤由貴

〈タ行〉

ワード——体内時計, タッチ, タウバトウ, タスマニアデビル, 体罰, 第二次中曽根改造内閣, チョモランマ, 中国経済特区・深圳, 通信販売, テクノピア, データベース, ドラカ村, 単身赴任, チャレンジャー, 知働革命, 通信衛星 CS-3, 東京サミット, デジタル, 天王星, ツツガムシ病, 電子メール, 男女産み分け, 同日選挙

人物——竹内均, 田島征三, ダイアナ妃, ディエンビエンフー, ティナ・ターナー, チャールズ皇太子

〈ナ行〉

ワード——名古屋大学放送公開講座, 日本丸, ニューメディア, 忍者ハットリ君, ネムリザメ, ネフローゼ, 脳死, ナミビア, NASA, ニイラゴンゴ, 乳幼児統合保育

人物——内藤千秋, 夏木静子, 中山茂, ナム・ジュン・パイク, 野村万之丞

〈ハ行〉

ワード——バイオ技術, パプアニューギニア, パスタ, パンタナル, ハザック, ハイテク食品, バレオパラドキシア, ビタミン C, ひょうきん族, ビタミン E, ピラルク, PCB, フォッサマグナ, 藤の木古墳, 4WD, 文化人類学, 貿易摩擦, ぼけ, ホログラフィー, 放送教育, ホロニックパス, 防衛費の GNP 1 パーセント枠, パフォーマンス, ハイデルベルク大学, 莫高窟, ボイジャー 2 号, ブロックン, ファミコン, ベンガルトラ, 変体文字, ボーフォート海,

北方領土, 母子相互作用, ポロロッカ, バードウォッチング, パイチパーマ族, パシフィカ大陸, パジャオ族, ポリマー, 光通信

人物——ポーポアール, パッシン・H, 橋本聖子, バリシニコフ, 弘中惇一郎

〈マ行〉

ワード——マオリ族, マーレー川, マンタ, メコン川, モアイ, モゲール, モロヘイア, モーリシャス, 文字ニュース (文字放送), マリノベーション, 南大東島, めぞん一刻, メニエール病, マイコン通信

人物——南伸坊, マルコス, 三宅一生, 向山洋一, ミッテラン, 森毅

〈ヤ行〉

ワード——ユーレカ計画, ユーロライナー, ユニバーシアード, ヤリガイ (ヤリ貝)

人物——山下泰裕, ヤイター通商代表, ヤマニ石油相, 山口昌男, 山下惣一, ユージン・スミス

〈ラ行〉

ワード——ラップ, ルーブル美術館, ルアングワ川, ロプノール, 老人保育所, 老人失語症, ローヌ川, レシチン, 臨教審 (基本答申)

人物——ラジブ・ガンジー首相, 李札仙, ラウレル, ラミン・コンテ

〈ワ行〉

ワード——ワーギ川

人物——渡辺茂

(3) キーワード・ピクチュアの構成

ア行, カ行, サ行の順に1985年7月～1986年6月の1年間にTV番組表に登場した合計256のワードを列記した (このうち65は人物である). 内訳は1985年後半から122ワード (うち19は人物), 1986年前半から134ワード (うち46は人物) となっている.

この中からキーワード, キーパーソンの合計60ワードを選出するために, まずワードの出現頻度回数に注目してみる. 人物については除いておき, 別に考える.

頻度10回以上は次の8ワードである. 宇宙の科学史, エイズ, 単身赴任, 東京サミット, 名古屋大学放送公開講座, 脳死, 文字放送, ユニバーシアード

頻度7～9回は次の5ワードである. いじめ, グルメ, 人工知能, ソビエト原発事故, テクノピア

頻度4～6回は次の8ワードである. エリカ号, コロンビア火山噴火, シルバーボランテア, タッチ, 天王星, ひょうきん族, 貿易摩擦, 臨教審

頻度3回は次の12ワードである. 家永訴訟, 異文化, 環境教育, ジオット, 思春期やせ症, パスタ, 文化人類学, ボイジャー2号, 母子相互作用, ホロニックパス, マンタ, ルーブル美術館

頻度2回は次の28ワードである. イッキ, 温熱療法, 海王丸, 川崎病, カルメン現象, がん化学療法, コンピュータ教育, CCV機, 生涯学習, 少衆, 新人類, スクールストレス, タウバトウ, 男女産み分け, チャレンジャー, チョモランマ, ドラカ村, 忍者ハットリ君, ネムリザメ, パプアニューギニア, ビタミンC, ファミコン, フォッサマグナ, 北方領土, マーレー川, ヤリガイ, ユーロライナー, ロプノール

人物については次のようである. 頻度10回以上は, アキノ, 岡田有希子, ダイアナ妃の3名,

Fig. 1 Key Words Picture I

1	アスベスト公害	environmental pollution by asbestos
2	いじめ	bullying
3	医食同源	ISYOKU DŌGEN
4	異文化	cross-cultural communication
5	インターフェース	interface
6	宇宙の科学史	science history on universe
7	梅原猛	Takeshi Umehara
8	ウーパールーパー	Axolotl, Ambystoma mexicanum
9	浦山桐郎	Kirio Urayama
10	エイズ	AIDS, acquired immune deficiency syndrome
11	エコロジー	ecology
12	大村はま	Hama Omura
13	おばさん症候群	OBASAN syndrome
14	温熱療法	hyperthermia therapy
15	絵画療法	art therapy
16	核の冬	nuclear winter
17	カール・セーガン	Carl Sagan
18	がん化学療法	cancer chemical therapy
19	環境教育	environmental education
20	金属疲労	fatigue of metal
21	グルメ	gourmet
22	劇場社会	theater society
23	コンピュータ教育	computer education
24	三世住宅	three-generation house
25	思秋期	SHISYŪKI
26	思春期やせ症	anorexia nervosa
27	失語症	aphasia
28	実年齢	JITSUNEN
29	生涯学習	lifelong learning
30	少衆	new type mini group
31	人工知能	AI, artificial intelligence
32	新人類	neo homosapiens
33	ソビエト原発事故	the accident in Soviet nuclear power plant
34	タッチ	TOUCH
35	男女産み分け	SS, sex selection
36	中国経済特区・深圳	Shing cheng
37	通信販売	mail-order selling
38	電子メール	electronic mail
39	ドラカ村	Dolakha village
40	中山茂	Sigeru Nakayama
41	名古屋大学放送公開講座	Nagoya University extension lecture by TV broadcasting
42	脳死	brain death
43	バイオ技術	biotechnology
44	光通信	optical fiber communication
45	フォッサマグナ	fossa magna
46	文化人類学	cultural anthropology
47	変体文字	transformative style letter
48	貿易摩擦	trade friction
49	母子相互作用	mother-baby interaction
50	ボーボアール	Simone de Beauvoir
51	ホログラフィー	holography
52	マイコン通信	microcomputer communication
53	マンタ	Mobula japonica, Müller et Henle
54	文字放送	TELETEXT
55	モーリシャス	Mauritius
56	山口昌男	Masao Yamaguchi
57	ヤリガイ	YARIGAI
58	ユニバーシアード	Kobe Universiade 1985
59	ユーレカ計画	EURECA (European Research Coordination Action) program
60	ユーロライナー	EUROLINER

Fig. 2 Key Words Picture II

ブロックⅠのキーワード 「海外・国際関連問題」	33	ソビエト原発事故	チェルノブイリ原子力発電所, 放射能汚染
	16	核の冬	核戦争後の暗黒・酷寒・人類滅亡の世界
	59	ユーレカ計画	フランスの防衛構想, 欧州先端技術共同体計画
	48	貿易摩擦	経済摩擦, 日米貿易収支不均衡
	36	中国経済特区・深圳	外資導入型の中国経済振興地域
	39	ドラカ村	ヒマラヤ・ネパール王国のカトマンズ近郊
	55	モーリシャス	インド洋に浮かぶ夢の島
ブロックⅡのキーワード 「コミュニケーション技術 ・科学技術」	51	マイコン通信	ニューメディア, 第二の電話
	38	電子メール	ニューメディア, 文書電送
	54	文字放送	ニューメディア, 字幕放送, テレテキスト
	44	光通信	レーザー光線による通信
	37	通信販売	通信による販売流通
	31	人工知能	情報科学, 考える機械, 第五世代コンピュータ
	5	インターフェース	コンピュータ仲介制御, 異質接触面, 橋渡し領域
	60	ユーロライナー	国鉄名古屋の欧風列車
	43	バイオ技術	生物工学, 生命科学, 先端農林・産業
ブロックⅢのキーワード 「学問・学芸常識」	46	文化人類学	民族学・人類学・地理学中心の学際的学問
	4	異文化	よその国の文化の理解, 国際感覚の涵養
	11	エコロジー	生態環境学
	6	宇宙の科学史	天文学
	51	ホログラフィー	現代映像文化, レーザー技術, レンズ不要の写真
	45	フォッサマグナ	地学, 日本列島地震の巣, 大断層線
	52	マンタ	海の帝王, 巨大イトマキエイ
ブロックⅣのキーワード 「現代の医療・医学」	3	医食同源	食生活での東洋的予防医学
	42	脳死	死の新しい定義, 死の判定, 死亡判断
	35	男女産み分け	産科婦人科, 生命倫理
	10	エイズ	新しい性問題, 後天性免疫不全症候群
	14	温熱療法	がん集学的治療法
	18	がん化学療法	がん集学的治療法
	27	失語症	老年痴呆, 脳動脈硬化, ほけ
	26	思春期やせ症	拒食症, 神経性食欲不振症
ブロックⅤのキーワード 「時代感覚」	32	新人類	生活保守主義の若者
	28	実年	50~60歳代
	30	少衆	大衆の拡散現象, 好みの多様化時代, 分衆
	57	ヤリガイ	やる気, やり甲斐
	13	おばさん症候群	女子中・高校生のおばさん化
	25	思秋期	中年期の妻たちのくらしとストレス症状
	34	タッチ	TVアニメ, あだち充, 浅倉南, 上杉達也・和也
	8	ウーパルーパー	有尾両生類, サンショウウオ, 目と目が離れている人
ブロックⅥのキーワード 「現代生活・世相」	22	劇場社会	情報化社会におけるマスコミ利用のパフォーマンス
	20	金属疲労	JAL1231便ボーイング747型ジェット機墜落事故
	1	アスベスト公害	大気汚染, 公害環境
	24	三世代住宅	住生活, 三世代同居型住宅
	47	変体文字	少女たちの変形マンガ文字・丸文字
	21	グルメ	食通, 飽食時代のリッチな美食
ブロックⅦのキーワード 「スポーツ・教育問題」	58	ユニバーシアード	国際学生スポーツ大会, 神戸大会
	2	いじめ	陰湿な学校, 集団いじめ, 校内「村八分」
	49	母子相互作用	胎教, ゼロ歳児早期教育, 乳児-母親間人間関係
	15	絵画療法	閉ざされた心の治療, 臨床心理的精神治療
	29	生涯学習	学歴社会是正, 社会教育, 教育機能の拡大
	19	環境教育	自然と環境をめぐる合科・総合学習, 環境保全教育
	41	名古屋大学放送公開講座	開かれた大学, TV公開講座, 地域文化の時代
	23	コンピュータ教育	学校教育へのコンピュータ導入, 新しい3R's
ブロックⅧのキーワード 「TVに登場した 7人の人物」	12	大村はま	国語教育52年
	50	ボーボアール	フランス女流作家, 第二の性, サルトルのパートナー
	56	山口昌男	文化人類学研究者
	7	梅原猛	哲学研究者, 国際日本文化研究センター初代所長
	9	浦山桐郎	映画監督, キューポラのある街
	40	中山茂	科学社会学・宇宙科学史研究者
	17	カール・セーガン	天文学研究者, 米国コーネル大学惑星研究所所長

7～9回は、チャールズ皇太子、中山茂の2名、4～6回は、浦山桐郎、ポーポアール、遠藤豊吉、マルコスの4名である。頻度3回の人物は、南伸坊、山口昌男、斉藤由貴の3名、2回の人物は、飯島宗一、梅原猛、シュワルナゼ、竹内均、ラジブ・ガンジー、泉重千代、岡本太郎、イメルダ、北尾、栗本慎一郎、向山洋一の11名である。頻度1回ではあるが、大村はま、カール・セーガン、シャガール、ヤマニ石油相、石川忠雄、久野綾希子、鈴木啓示、前島征三、ティナターナー、内藤千秋、パッシン H・ラウレルの12名も捨て難い、魅力ある人物である。

これら出現頻度の高いワードや人物を考慮しつつ、筆者としては Fig. 1 のようなアイウエオ順に示される60のキーワードを選出した。頻度ばかりではなく、重要度が高いと思われるもの、現代社会を象徴するシンボルとしてのワードをオールラウンドな分野からバランスよく選んだつもりである。人物については、死に急ぐ現代の若者たちのシンボルとしての岡田有希子(4月自殺、当時18歳)を加えるべきであったかもしれない。ちなみに、彼女の飛び降り自殺に誘発されたのか、「少年非行白書」(警察庁まとめ)によると、青少年の自殺は4月以降急激に増え、4月114人、5月88人、6月85人と例年には見られない異常な急カーブを描いた。しかし、筆者自身の「好み」も加味させて他の7人を選んだ。ご寛恕いただきたいと思う。Fig. 1の「キーワード・ピクチャ I」は、60のキーワードをアイウエオ順に示したものである。誤訳を恐れずに、それぞれのキーワードの横文字訳も掲載した。Fig. 2の「キーワード・ピクチャ II」は、Fig. 1の60のキーワードを8つのブロック(「海外・国際関連問題」「コミュニケーション技術・科学技術」「学問・学芸常識」「現代の医療・医学」「時代感覚」「現代生活・世相」「スポーツ・教育問題」「TVに登場した7人の人物」)にグルーピングし、再構成したものである。また各キーワードの簡単な説明を加えることも試みた。ピクチャとして Fig. 1よりは多少見やすい形を取っている。Fig. 2のピクチャ構成は一つの構成のしかたであって、もちろん他の手法によるピクチャ構成が考えられてもよい。

おわりに

前回までの手法に従えば、Fig. 2に示される60のキーワード各々について本稿で内容的展開を行うべきであった。しかし今回は1980年代前半から後半への移行期1年目という節目の年でもあるため、1980年代前半期全体の総括を図ることに力点を置いた。そのため、1985年7月～1986年6月の1年間の現代社会を取り扱う作業については Fig. 1, Fig. 2を構成するだけに留まってしまった。しかし筆者としては、Fig. 1, Fig. 2のキーワード・ピクチャを構成する前の手順として、今回はナマのデータを本稿に直接記録し、60のキーワード選出のためにはその4倍以上のワードが下敷きになっていることを強調した。ナマ・データを前面に出すことに主眼を置くべきか、選択した60のキーワードの内容的掘り下げにポイントを置くべきか、次回からはこの分岐路についてじっくり吟味し、1980年代前半の場合とはやや異なるスタイルのまとめ方にチャレンジしてみたいと考える。今回はその過渡期でもあるため、1980年代前半期の全体のまとめと1980年代後半の第一年目のそれとが重なって、やや落ち着きに欠ける整理に終わってしまった。しかし、これもターニングポイントにおける貴重な一つの姿としてここに形を残し、近未来における新しい手法の発見と創造につなげることにしたい。

白頭を悲しむ翁に代わって、劉廷芝は「年年歳歳花相似，歳歳年年人不同……」と漢詩を歌ったが、筆者としては、これをもじって TV と現代社会について次のように吟じ、本稿を閉じることとする。「年年歳歳 hard 相似，歳歳年年 soft 不同」。

文 献

- 1) 「毎日新聞」 1985年7月1日～1986年6月30日号
- 2) 伊佐治大陸：名古屋女子大学紀要, **28**, 199～214 (1982)
- 3) 伊佐治大陸：名古屋女子大学紀要, **29**, 159～172, 173～185 (1983)
- 4) 伊佐治大陸：名古屋女子大学紀要, **30**, 109～126, 127～144 (1984)
- 5) 伊佐治大陸：名古屋女子大学紀要, **31**, 165～182, 183～202 (1985)
- 6) 伊佐治大陸：名古屋女子大学紀要, **32**, 171～182, 183～195 (1986)